

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑩

安全、安心な入浴自立に向けて

専門相談では、体力や機能低下に伴って今まで自立していた動作が徐々に難しくなってきたため、動作方法を再検討するための訪問が多くあります。しかし、今まで慣れてきた動作方法を変えることは難しい場合があります。そのため、介入側一方的に押し付けるのではなく、本人が行ってきた動作方法を踏まえ、動作の変更を提案し実際に行ってもらえるように環境などを調整することが必要になります。今回は、動作方法の変更のため3回にわたり自宅に訪問した事例を紹介します。

◆支援要請機関：相談支援事業者 対応職種：SW、PT、OT、福祉用具業者

事例は在宅で生活されている脳性マヒのケースです。今までは、車いすベースで自立した生活を送っていましたが、徐々に体力の低下や身体の緊張が高まり、動作に支障が生じていました。



写真①



写真②



写真③

初回の訪問では、実際に行っている動作を確認し課題点を検討しました。特に入浴動作では浴槽内への移動に上肢の力を中心に行っていたため、本人の身体への負担が高まるだけでなく、バランスを崩し転倒の危険性も高まっていました。そのため、浴槽内への移動にはバスボードを利用した方法を提案しました（写真①②）。模擬的な試用では良好であったため、実際の生活で業者のデモ機を用い入浴してもらいました。その結果、今までと比べて、安全で、かつ楽に移動することが可能となりました。次に、浴室から車いすへ戻るときの移動に不安があったため、手すりの設置を検討しました。設置する場所の位置、高さ、大きさなどを実際に本人と動きながら検討し、浴室入口に手すりを設置することを提案しました（写真③）。これにより、入浴動作は安全に動作が可能になりました。

今回の事例のように、動作方法を変える場合には、実際に行う本人変更した動作方法を理解し、日常で安全に継続して行えることが重要と思います。そのためには、多少時間はかかるかもしれませんが、お互いに共感する関係づくりができればと思います。

（小泉 千秋）